

舟形山(御所山、船形山)

大和工営一等三角点の会

(冠字番号)

成果	X=-171745.080m Y=-18333.710m 標高 1500.23m
----	--

世界測地系「測地成果 2011」

点	選	点	明治 21 年 9 月 一 日	選	点	者	桑野庫三
の	造	標	平成 一 年 一 月 一 日	—	—	—	—
記	埋	標	明治 25 年 8 月 9 日	埋	標	者	高井鷹三
抜	観	測	平成 8 年 9 月 10 日	観	測	者	榎本充剛
粹	(備考) 平成 8 年、高度基準点測量						
所在	山形県尾花沢市大字鶴子字御所山国有林 82 林班						

登山日 2014 年 7 月 21 日 (月)

コースタイム 全行程 11:00 (歩行時間、往路 5:00 復路 4:20 計 9:20) ※赤字は所要時間

往路	6:45	8:00	9:50	11:45	
5:40	7:10	8:15	10:05	12:00	12:55
新庄	御所山荘	落	クラビ	御宝前	舟
→ 1:05	→ 0:50	→ 1:35	→ 1:40	→ 0:55	→
車	2.9km	2.6km	2.5km	1.4km	山
会社	夫の小屋跡	合	分岐	分岐	山
← 0:55	← 0:50	← 1:35	← 1:20	← 0:35	
19:20	18:10	17:20	15:45	14:20	13:45
復路	18:25	-	-	14:25	

3つの名前をもつ山・一等三角点「舟形山」

山形県尾花沢市に一等三角点の山「舟形山」（標高 1500m）がある。「舟形山」は国土地理院が命名した三角点の名称であるが、その山名は山形県側からは「御所山」という名前で親しまれており、宮城県側からは「船形山」と呼ばれている県境の主峰である。

「御所山」には、承久の乱（1221 年）で佐渡ヶ島に流刑された順徳上皇がこの地に落ちのびたとする伝説があり、そこから「御所」の名前がついたという説と、5つの峯を表す「五所」からきたとする説があるという。宮城県側の「船形山」の由来は、山を逆さにすると「船の形」に見えるからだと言われていて、実に解りやすい。（本稿では山名を以後「御所山」と呼ぶ）



新旧の国道 13 号の間の尾花沢市丹生川河川公園から望む

舟形山(1500m)・別名「御所山」登頂記!!

御所山頂への遠い^{みちのり}道程・・・

御所山は尾花沢市中心部から南東へ約25kmの位置にあり、尾花沢市の最高峰である。登山口からは荒神コース、クラビコース、層雲峡コースの3ルートあり、それぞれの標準タイムで5:15、4:45、5:35で山頂への道程は遠い。御所山は初めての山であり安全を考え尾根道のクラビコースにした。また日帰りと考えていたので登る時期を選ぶ必要があった。結果、2014年7月21日(月)に尾花沢市の最高峰「御所山」をめざすことにした。

7月21日(山形)
日出 4:32
日入 18:58
月齢 23.8

「海の日」に山に登る??・・・

7月21日(月)のAm5:40に会社を出発した。折しも当日は「海の日」の祝日だが「海の日」に山に登ることになった。メンバーはいつもの4人組で、御所山への登山は全員が初めてである。

尾花沢新庄道路から尾花沢市街に入り、同市古^{ふる}殿^{どん}を経由して新鶴子ダムをめざした。地図を頼りにダムの堤体下で左折し、林道を進む。何の案内板も無いままダムの右岸を慎重にハンドルを切りながら進む。ダム最上流部の箇所^{箇所}で火棚沢へ続く林道の分岐点で「御所山登山口」の案内板を発見し、ひと安心した。御所山荘脇を過ぎてすぐ橋を渡り左カーブに進むと登山口である「夫の小屋跡」といわれる駐車場に辿りついた。

広い駐車場に“車が3台”だけ!?!・・・

駐車場の入口には「夫の小屋跡」の石碑があった。どのような^い謂われのものなのか? その時は知る由もなかった。

広い駐車場には2台の車しかなかった。車道は「落合」まで続いているみたいだがガードパイプで閉鎖されていて車の乗り入れが出来なくなっている。早速登山の身支度を整えることにした。



登山口の看板が現れる・・・



御所山荘：尾花沢からの登山基地?・・・



夫の小屋跡が登山口・・・

夫の小屋跡の石碑

素堀のトンネルを潜り抜け「落合」へ

「夫の小屋跡」から「落合」までは2.9Kmの行程である。いよいよ未知なる御所山への山旅の始まりである。Am7:10。予定より30分遅れで出発した。出発して10数分すると材木岩と云われる処に辿り着いた。左手は断崖絶壁で見上げるとオーバーハングの岩も見て取れる。右手はそぎ落とされたような谷底で、沢は落石で閉塞している。雨の日は勿論、大声を出す事も**はばか**られた。更に進むと崩れそうな素堀のトンネルが2箇所あった。登山口で車の通行止めになっている理由に納得できた。奥に進んでも林道の幅員は広い。車が入れないのが何とも勿体ない話である。

車道終点の「落合」には50分で到着した。



「落合」から尾根道を登り稜線へ

「落合」には東屋^{あずまや}があり、小休止した。そこから歩道は二手に分かれている。右手は沢に下りて層雲峡コースとなる。今回は左手のクラビコースを登る。尾根筋はハプニングのリスクが低く初めての「山」だが安心できた。「落合」から並行する溪流沿いを10数分程進むと、沢に3本丸太を渡した橋があった。朝露でまだ濡れている。お互いに注意しながら慎重に丸太橋を渡った。

御所山まで登る?、大変だぞォ・・・

橋渡り終えた処から、稜線までは急登となる。815mピークの処で歩道の前方から白い動物が現れた。カモシカ?。が、よく見ると犬であった。イワナ釣りに来ていた方の愛犬だった。言葉を交わしたら「これから御所山まで登る?大変だぞォ・・・」と云う。その言葉を背中で受け止め、先を急いだ。



悪路の登山道??...

樹林帯がとぎれ草地の斜面を歩行する場面もしばしばあった。しかし歩道の下刈りはされてなく、足元が見えず難儀する羽目になった。先行者の踏み跡もないし、人に会ったのは先ほどのイワナ釣りの人だけである。(尾花沢側から御所山に行く登山者がいないから?・・・登山道の下刈りもしていないのかなァ、)と思った。

1:35を費やしてAm9:50に稜線のクラビ分岐に到着した。



枝沢の渡渉、水が冷たくうまい・・・

1000m超の稜線なのに、深いブナ林の中・・・

クラビ分岐は標高 1010mある。ここから3つのピークを越えてめざす御所山頂に到達することになる。が、ここでひとつの問題があった。1000m超の稜線が連なるものの、ブナの大木の樹林帯が周囲を覆い隠して、展望がまるでない。登山は^{たかみね}高峰で、登ってきた風景や下界を見おろすことがその醍醐味の重要な部分である。梅雨明け間近な夏の気温。加えて風がない。ザックの中から細いホースを通して口で水を補給する動作も忙しくなる。汗を拭き、ひたすら歩き続けた。



稜線には「手作り案内板」が数多くあった・・・



1000m超の稜線を覆おうブナ林の中を歩く・・・

ブナ林が途切れ、山頂が現る !!・・・

クラビ分岐からブナ林の稜線を歩くこと1:40で標高1291mの^{ごほうぜん}御宝前分岐に到着した。頭上を覆っていたブナ林はなくなり、灌木に変化していた。そして見上げた先に目指す御所山の頂上が見えた。そのうえ頂上で動く登山者の姿も見て取れた。

時刻はAm11:45。「先が見える」このことは、萎えかけていた気持ちを奮い立たせる原動力かも知れない。行動食を口にして、目的の山頂を目指すことにした。



ようやく見えた、御所山山頂・・・

山頂目前にしてのハプニング??

御宝前分岐から御所山山頂までは、標準タイムで45分、標高差は209mである。深い藪で覆われた登山道を足で探しながら進んだ。そして稜線直下の窪地に来た処で振り返ると、スガノ、大介の両名がついてきていない。クラビ分岐からブナの大木で覆われた蒸し風呂?状態の登山道を歩き続けたためバテ気味みたい?。また背負っていた飲料水をホースで吸う「自動給水器」で3割も飲み干していたのだ。遅れて来たふたりとその場で呼吸を整えて、休憩した。



山頂はすぐそこだが、少し休憩・・・

ついに御所山山頂(1500m)に立つ・・・

御宝前分岐から55分。Am12:55。ついに目的の御所山山頂に立った。登山口の「夫の小屋跡」を出発してから、5:45の時間を費やしていた。山頂は時々濃霧が吹き渡ってくるものの、その切れ間の下界を眺望できた。お目当ての「一等三角点」とご対面し、記念の証拠写真を撮った。

一等三角点の柱石を囲み、遅い昼食をしながら濃霧の切れ間から下界の景色を堪能した。山頂で50分程過ごした。ふたりの体調も回復していた。Pm1:45同じルートで下山を開始した。

御所山山頂の風景



一等三角点舟形山を囲んで・・・



船形山避難小屋



山頂に建つ御所神社



尾花沢市街

御所山荘

御宝前分岐

クラビ分岐

山頂から尾花沢方面の眺望

御所山周辺の探索

後日取材しました。

御所山と順徳上皇

「御所山」の名前の由来とされる順徳上皇に関わる「史跡」が山形県尾花沢市正厳地区に現存している。その「史跡」とされる天子塚と御所神社を訪ねてみた。

承久3年(1221年)横暴を極める鎌倉幕府を打倒し朝廷の復権を計るため、第84代順徳天皇は退位して父君の後鳥羽上皇と共に挙兵したものの、朝廷側が敗北し佐渡ヶ島に流刑された。

この挙兵が承久の乱と云われているものである。順徳上皇は、10年に及ぶ孤島の地から侍従阿部常次郎頼時の手助けで密かに島を脱出して、日本海から最上川をさかのぼって大石田に上陸し、尾花沢から船形山に登り隠れ^{ひそ}潜んだ。その後、正厳に下り御所を構えたが寛元4年(1246年)に崩御^{ほうぎょ}されたと伝えられている。

その墓地とされる天子塚(順徳天皇陵)が宮沢小学校の東隣の丘に保存されている。又、順徳上皇を奉祀している御所神社は、天子塚から500m離れた常次郎の末裔の旧家の隣に建立されている。(文は案内板を参考)



御所神社 (尾花沢市正厳)



天子塚の案内板



天子塚 (傳順徳天皇陵)

新旧鶴子ダム

尾花沢市街から御所山に登るには「新鶴子ダム」堤体の手前を左折して林道を進むことになる。登山計画の中で会社の資料棚で地形図を探していたら、旧鶴子ダムの地形図を発見した。掲載の地形図は新旧の鶴子ダムである。ダム湖右岸の林道を通ってもその規模の大きさに仰天したが、この地形図を見ても「新鶴子ダム」の大きさが理解できるものと思う。



国土地理院昭和59年発行2.5万地形図より



国土地理院平成15年発行2.5万地形図より

新鶴子ダム

現在の新鶴子ダムは昭和49年（1974年）に着工され、平成3年（1991年）3月に完成している。17年の歳月と330億円余の巨費を投じ完成した。船形連峰の豊富な水源は尾花沢市、大石田町の3,400ha余の水田地帯を潤している。新鶴子ダムは「平成の湖」の愛称でも親しまれている。ダム周辺には「森のホテル御所山」や花笠高原スキー場などが整備され、尾花沢市の新たな観光資源となっている。

写真①



新鶴子ダム（平成の湖）

御所の水ハス公園

新鶴子ダムの手前1.5km程の処に「『御所の水』ハス公園」の看板がある。それに誘われて農道を1kmほどゆっくり進んで行くと、そのハス公園が現れる。

「御所の水ハス公園」は、地元で建設業を営む伊藤勇太郎さんという方が約80年かけて湧き出す天然水の水場を「御所の水」場として整備し、周辺の荒れ果てた休耕田を借り受けてハスやスイセンを植えたのがその始まりだということです。「御所の水」は山形県の水質調査で良質な天然水であることが確認され、県内外から水を汲みに来る人が後を絶たないとの人気ぶりです。

借りている休耕田は約4haで、約9,500本のハス畑に生まれ変わり、ハスの花が咲き誇っている。鶴子の小さな集落に年間約2万人の観光客が訪れる程の名所です。ハスの見頃は7月中旬から9月上旬までという。必見です。見て損はしません。一度訪ねてみてはいかがでしょうか。



左側に案内板が見える・・・



農道脇の休耕田がハス畑に変身!!



あわせて9,500本のハスの群落で・・・



大輪の花が見事に咲いています・・・